

CHUOH TRY+ANGLE

知っ得通信

2014年8月20日発行 編集・発行：中央教育研究所(株) 〒732-0811 広島市南区段原2-15-5 <http://www.chuoh-kyouiku.co.jp/>



中土井鉄信の「地域一番の繁盛塾になるための最強法則」 vol.30

<ジリ貧になる塾の特徴!>

この原稿が皆さんに届く頃は、きっとお盆休みが終わって、いよいよ後半戦に突入したという時期ではないでしょうか。こんな忙しい時に、この原稿を読んでいただいている読者の皆さんのために、今回は、気楽に読めるものを考えました。題して「ジリ貧になる塾の特徴」です。

私が、今まで、塾の再生に関わる時、「この塾は、どうして右肩下がりになってしまったのか?」と問いながら、不振の原因を探し、治療を施してきました。そんな中から気づいたこと、再確認したことをお伝えします。

まず、教室全体の自己チェックをしてみてください。

1. 生徒に元気がない
2. 職員に元気がない
3. 塾長・室長に元気がない
4. 生徒の遅刻・欠席が多い
5. 宿題忘れが多い
6. 今どきの子どもを昔ながらの子ども観で見ている
7. 保護者とコミュニケーションを意識的にとっていない
8. 月謝が安ければ生徒は増えると思っている
9. 校舎の入り口が汚い
10. パンフレットがない
11. 月例通信がない
12. 生徒面談がない
13. 保護者面談が希望制
14. 何をやるにしても準備不足
15. 毎年同じことしかしてない

どのくらい該当しましたか。少しでも心当たりのある方の教室は、もしかしたら右肩下がりになってしまいかもれません。

次に塾長・室長の姿勢や態度についての自己チェックです。

1. リーダーとしての自覚がない
2. 新しい情報を積極的に収集しようとしていない
3. 昔の良い時代を忘れられない
4. 仕事に対して執念がない
5. 他人のモチベーションを高めようとしていない
6. 他塾の批判が大好き
7. 被害妄想的な思考が強い
8. 批判を避ける為に、はっきりと意見を言わない
9. 失敗を職員の所為や他塾の所為にする
10. 教室の存在意義を自覚していない

どのくらい該当しましたか。「ほとんど該当するわけない!」とお叱りを受けてしまうかもしれません。しかし、当の本人はなかなか自覚していないものです。なんて言えば、またまた叱られそうですね。

ジリ貧になるには、それなりの理由があるのです。その理由を自分の中に求めない限り、何も解決できません。是非、9月の通常業務が始まる前に、皆さんの塾と自分自身を振り返ってみてください。皆さんの地域の「他塾が何をしているのか」、「皆さんの塾が何をしているのか」、「皆さんの塾に何が足りないのか」、是非、色々と自己対話して欲しいのです。

塾長や室長は、いつも孤独で、他者から批判やアドバイスを受け難い存在ですから自己チェックは非常に大切です。「自分は、生徒や職員から、どう見られているのか」と考えを廻らせ、自覚的に反省することで、9月からの業務の注力点が明確になり、塾の今後の発展に大きく影響してきます。

【あとがき】

今年の夏は、非常に出足が遅かったようです。8月1日段階でもまだ問い合わせがある顧問先もありました。9月に向けて、準備をそろそろしておいてください。9月～12月の業務計画の立案と実行が、来期を分けるかもしれません。暑い夏、もう一踏ん張りです。読者の皆さん、お体ご自愛ください。



私立中学受験は4年になる直前の2月ないし春休み頃からスタートするのが一般的と言われています。中にはもっと低学年から受験勉強を始める方もいるようですし、そのようなコースを用意している塾もありますが、多くの塾の受験カリキュラムは3年間で編成されており、小学校の履修範囲は6年の夏休み前には修了します。夏休みは総復習の場であり、秋以降は応用問題演習、テーマ別学習に入っていくことが多いようです。

それに対し、今注目を集めている公立中高一貫校を受検しようとする場合、スタートはいつごろからすればいいのか、どのような準備をしておかないといけないのかという質問をいただくことが多いのです。

公立中高一貫校が続々と開設された当時は、小学校での成績がよければ受検（しかも合格）できると「勘違い」した生徒が少なくありませんでしたが、公立中高一貫校への評価の高まりとともに、ある程度準備をしていないと厳しいということは浸透しました。それだけ粒揃いの生徒が集まって厳選した受検状況となったわけです。

私立中学受験ほどの準備期間は必要ありませんが、小学校での学習内容をきちんと理解して基礎学力があるお子さんであるならば、一般的な公立中高一貫校を受ける場合、小学校6年から始めれば問題はないと思われます。小学校5年段階で文章読解力、正確な計算力がきちんと身につけているのであれば、6年の途中からでも集中的に準備すれば対応は可能です。ただし、首都圏で申し上げますと、都立小石川中等教育学校などのように私立受験生の併願対象校ともなっている学校については、もう少し本格的に勉強をやっておく必要があるかと思います。

それと並行して、次のことも行っていただきたいものです。公立中高一貫校にもいろんなタイプがあります。受検対象校が複数存在するのであるならば、どういうタイプの学校なのかを情報誌や各校のホームページなどで事前に

しっかりと調べておきましょう。過去問もホームページで閲覧できるのであれば、チェックしておくことをお勧めします。また、どういう選抜方法なのかということも調べておいてください。さらに学校説明会や公開されている行事に足を運んで、その学校のナマの姿に接することで、お子さんの向き不向きを確認しておいてください。

最低でも小学校6年からきちんと準備していただくとして、どこでやればいいのかということになります。これは公立中高一貫校対策を掲げている近くの塾が一番いいと思われれます。塾で準備をすることでどのようなメリットがあるかと言いますと、受検に合わせた適切な指導があることはあたりまえですが、さらにいろんな情報が入手できること。そして、同じ目的でがんばっている仲間と出会うことで、お子さんの受検へのモチベーションが高まるのが大きいと思います。公立の普通の中学校に進学する友だちは、普段は特別な勉強をしていないのですから、塾に仲間を見出すということは大きな意味があります。お子さんがやる気を起こしてがんばるならば、スタートで多少遅れたなどのハンディキャップはすぐに取り戻せます。大事な的是お子さんのやる気と集中力です。

近くに適当な塾がない場合はどうするかとなりますが、その場合は通信講座を活用するという方策もあります。どんなことがあっても公立中高一貫校に合格して、6年間理想的な環境の下で勉強するのだという気持ちが、大事なことです。